

区議会レポート

78号



葛飾区議会議員

かわごえ誠一

本号の内容

表面：第三回定例会報告など

裏面：タウンミーティング報告など

2021年9月22日発行

発行：

かつしか区民連合

【区議会控室】〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

fax 03-3697-0137

葛飾区議会 令和3年第三回定例会

◆令和3年葛飾区議会第三回定例会が9月7日から10月4日までの28日間の会期で開かれ、9月22日の中間本会議で新型コロナウイルス対策を含む第五次補正予算48億1千9百万円が議決されます。◆地域活性化・区民サービス向上対策特別委員会において「キャッシュレス決済サービスの導入（特別区民税・国民

健康保健料など）」「文書の押印の見直し基準～法律などで必要とされるもの以外の押印廃止」などが報告されました。◆9月24日からは決算審査特別委員会が開催され、4つの分科会において款項別に令和二年度葛飾区決算が審査されます。今任期中最後の定例会になり、四年間の総決算としても取り組んでまいります。

かわごえ誠一 臨時 タウンミーティングのご案内

テーマ：障がい者理解を！パラスポーツ・ボッチャを知ろう！

だれでもできる「レクレーションボッチャ」ってなんだろう？

◆講師：葛飾区ボッチャ協会（緊急事態宣言解除を前提に開催予定）

と き：2021年 **10月9日**（土）14:00～16:00 開場 13:40

会 場：東立石地区センター 3階ホール 葛飾区東立石 2-15-7

◆申込み～お申し込みは右QRコードの申込フォーム又は下記かわごえ誠一連絡先まで。

※葛飾区の感染症対策に準じて開催いたします。申し込み多数の場合は先着順といたします。

緊急事態宣言の延長など感染拡大の場合は中止・変更となることがあります。

感染症対策及び、会場の都合上事前にお申し込み下さい。当日はマスク着用でのご参加・検温・手指消毒のご協力をお願いいたします。せき・発熱など体調不良の方は参加を控えていただきますようお願いいたします。



申込みフォーム

◆先日閉会したパラリンピックは様々な感動とともに、共生社会への道筋が照らされたと思います。その中で、個人・団体が金・銀・銅メダルを獲得したボッチャの活躍も目が離せませんでした。◆今回、急遽「パラスポーツ・ボッチャ」のテーマで、臨時タウンミーティングを開催することにしました。ボッチャの成り立ち、ルール、葛飾区でのボッチャ選手の活動などのお話を伺うとともに、健常者・障がい者の枠を越えて楽しめるレクレーションボッチャの体験もしたいと思います。感染症対策のため、広い会場で少人数で開催します。また、ボッチャで取り組む感染対策での実施とさせていただきます。まずはお申し込み下さい。

■かわごえ誠一連絡先■

〒124-0012 葛飾区立石 8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail: info@kawagoeseiichi.com

かわごえ誠一オフィシャルサイト

www.kawagoeseiichi.com

日々の活動は Facebook をご覧ください。

◆かわごえ誠一プロフィール◆

●昭和38年3月川崎市生まれ ●立石在住33年 ●防災士 ●東海大学第二工学部建設工学科卒業 ●元東京工業大学附属科学技術高校非常勤講師 ●本田消防団第四分団班長 ●葛飾区ボッチャ協会会長 ●保育園学童保育クラブ父母会、小中学校PTA、おやじの会、図書館友の会、子育てネットワーク、保田しおさい学校、三番瀬保全活動などに携わる。●元都議会議員秘書を経て平成25年区議会議員選挙で初当選・平成29年二期目当選 ●立憲民主党 ●区議会所属：文教委員会副委員長／地域活性化・区民サービス向上対策特別委員会／広報委員会

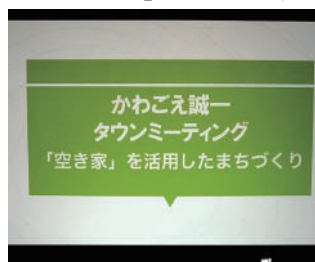
タウンミーティング「空き家」を活かしたまちづくり 報告

～空き家活用で若者を呼び込むまちづくり・京島での実践から学ぶ～

◆去る年8月30日（月）の夜「空き家の活用」をテーマにタウンミーティングをZoomで開催しました。まちの中で目にする空き家を「まちの財産」として、どのように活かせるのか考えたいと企画しました。

■空き家を人と人がふれあう「地域の縁側」に

◆冒頭かわごえからは空き家活用への取り組みと、空き家をコミュニティスペースとして活用することで生まれる「可能性」について報告させていただきました。



オンラインで進行するかわごえ↓



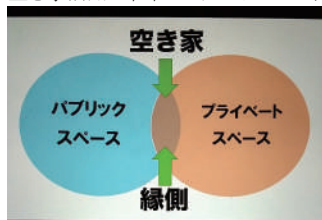
タウンミーティングタイトルバック↑

◆令和2年第一回定例会の予算審査特別委員会総括質疑において、かわごえから「地域活性化・人口導入政策としての空き家活用について」の質問をしました。その中で「空き家の活用のための体制整備が必要」との指摘に対して政策経営部長から「空き家の活用はシティセールス、地域の活性化、新住民の移住などにもつながる。今後の推進体制について検討する」との答弁がありました。◆これまでNPOや自治町会などから「空き家を活動拠点にしたい」「居場所にしたい」などの要望を多くいただきました。しかし行政からは「団体活動などは公共施設を使えばいい」旨の答えでした。しかし公共施設は「目的が明確であること」や「時間が限定」されるなどの制限があり、ニーズとマッチングしないのが実情です。



まちの縁側のイメージ↑

空き家活用の位置づけのイメージ↓



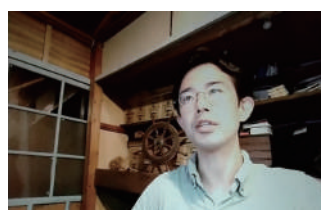
◆地域活動をする方々との会話から、何が求められているか改めて分析すると「パブリックスペース」と「プライベートスペース」が接する「縁側」のような中間の空間であり、融通の利かない公共施設ではなく、フリースペース的な場を空き家に期待しているのだと感じています。◆今後、空き家の活用を進めるために行政がどのように関わるべきなのか、実際に行われている取り組みも参考にしながら空き家の活用に結びつけたいと思います。

■葛飾区の空き家対策の現状について

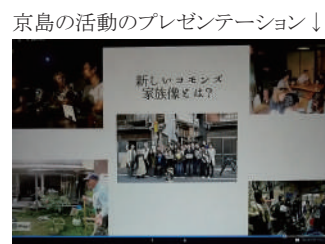
◆次に葛飾区の空き家対策について、住環境整備課長から「葛飾の空き家対策について」報告をいただきました。◆葛飾区としては放置された危険な空き家＝「特定空家」への対策が進められており、命令や行政代執行などが行われてきました。現在、空き家が放置され、危険な状態にならないように家主に対し、管理費用の助成や樹木の剪定の助成などの制度が作られて運用されています。空き家のマッチングなどは今後の検討課題とされました。

■京島・空き家のマッチングで地域が変わる

◆今回のメイン講演として「空き家をまちの宝物に～京島・空き家とアーティストのマッチングで生まれる地域の魅力」をテーマに、京島長屋文化連絡会の後藤大輝さんから京島の事例についてお話をうかがいました。◆映像作家だった後藤さんが京島に移り住んだのは、知人から誘われてとのことです。京島の長屋の空き店舗を改装し、住みはじめると下町の人々のつながりなど、まちに魅力を感じたとのことで、その後、地域の空き家を友人などに紹介し、京島に誘い続け、仲間が増えてきたとのことです。現在33カ所の拠点があるとのことです。



講師の後藤大輝さん↑



◆放置されていた空き家にアーティストなど住込み、手を入れてアトリエやカフェなどにリノベーションすることで人々が集まる場なり、そこから新たな取り組みが生まれるという循環が伺えました。空き家に入居したアーティストが地域のイベントに参加し、地域住民との交流が生まれ、地域の活性化につながっている様子も見られました。◆後藤さんが家主さんとの人間関係や、地域との信頼関係をつくり、空き家と住まい手のマッチングをしている様子が伺え、コーディネーターとして大きな役割を担っており、コーディネート・中間支援の重要性を感じました。

■まとめ

◆空き家活用はまちの記憶を繋げることや、地域社会の活性化、NPO支援などのにもつながると実感しました。人と人がつながる場「まちの縁側」は地域共生社会の実現に有効と考えられます。京島の事例だけでなく、区内の個別の事例も情報収集し、葛飾区としてどのような支援・制度が望ましいか検討を進めたいと思います。

雑感：今期の任期も残すところ2ヶ月を切りました。毎回この区議会レポートをお受け取りいただき感謝申し上げます。最後まで淡々と区議会の報告に徹しさせていただきました。国政などの政治情勢など知りたい方には物足りないとお感じの方もいらっしゃるのではないかと危惧をし

ながらも区政で取り組まれていることや、かわごえが取り組んでいることを少しでもお伝えしたいとの思いで毎月駅頭で配らせていただきました。衆議院選挙が11月初旬か？投票日が区議選と重なるか？などの予想も出ていますが、残す任期を地域代表として尽力してまいります。